

府中市郷土の森博物館 特別展

多摩川 冬鳥の変

2026年1月14日
府中市郷土の森博物館
〒183-0026 府中市南町6-32

主催 府中市郷土の森博物館運営グループ
(公益財団法人府中文化振興財団・株式会社五藤光学研究所)

会期 2026年1月24日(土)～3月8日(日) ※休館日1月26日(月)

会場 府中市郷土の森博物館 本館1階 特別展示室

観覧料 博物館入場料でご覧いただけます
(大人300円 中学生以下150円 4歳以下無料)

◇ <https://www.fuchu-cpf.or.jp/museum/tenji/1000074/1007809.html>

府中の南縁に沿って流れる多摩川は川幅が広く比較的緩やかな流速の本流をはじめ、中州や河川敷、土手と言ったバラエティーに富んだ環境基盤を有します。これら多様な場所を利用する生きものたちが多摩川に集まり、河原に繁茂する植物から順に、昆虫、野鳥といった生態ピラミッドを形成しています。特にその上位を占める野鳥については留鳥・渡り鳥ともに多種多数を数えます。

冬の多摩川には、北方から渡り鳥(冬鳥)が長距離を移動して来ます。また、南方への移動途中に立ち寄る渡り鳥(旅鳥)も多摩川を利用します。さらに近年は、里山から生息地を追われて都市に転居した鳥たちも、市街地から多摩川へ自由に出入りをしています。このように多摩川の野鳥社会は混雑化し、そして今、2019年の大型台風による浸水被害を契機とする防災目的の河川改修がここ数年行われてきました。多摩川の様相は大きく変貌を遂げたのです。

本展では、冬の多摩川を活動エリアとする野鳥の飛来状況とともに、変化した水辺の環境が彼らに与えている影響を探っています。多摩川の野鳥ひしめく現状に、果たして河川改修後の環境変化はさらに影響を及ぼしているのでしょうか？ 留鳥・冬鳥・旅鳥の視点で紹介し、多摩川環境から見た野鳥の今を理解してもらえよう構成しています。

次頁につづきます

この件のお問合せは下記へお願いいたします
学芸係広報担当
TEL 042-368-7921 FAX 042-360-8217
Eメール kyodo-no-mori@msi.biglobe.ne.jp

かつての大丸堰にカモの軍勢が(簡易ジオラマ)

展示の見どころは、もちろん、多摩川の水辺や河原に集う野鳥たちである。特に多摩川で越冬する冬鳥の代表として、我らカモの軍勢が改築前の大丸堰に集まっていた頃の賑わいを簡易ジオラマで再現しておく。かつての我らが水面をところ狭しと泳ぐ雄姿を存分に味わってもらいたいものだ。



展示構成

はじめに(多摩川環境の変)

増水と河川工事で変わる多摩川環境

多摩川生態ピラミッドの頂点…オオタカ親子をモチーフに

今も変わらず多摩川の空には猛禽の姿…まずは空を見上げよ

A 「里山→都市→いざ市街地から多摩川へ」

府中の自然が豊かな場所～段丘・浅間山・多摩川

都市に転出した野鳥たち

河原との行き来が頻繁 本来の自然地を求めて… 都市にも猛禽

B 「呉越同舟 多摩川冬鳥の衆」

河原(草地・溪畔林)を賑わす留鳥と渡り鳥、そして猛禽

渡りのメカニズムと目的・飛来先

過去の変とカワセミ後退

冬鳥の主演にスポットライト～ツグミとジョウビタキとモズ

C 「カモの軍勢が訪れた堰～かつての大丸堰に集う」 簡易ジオラマ

カモを観察しながら特徴や生態について考えるクイズパネル

D 「水際の攻防～冬鳥の変」

現在の多摩川大丸堰付近では…渉禽類・水禽類

数の変遷 カモの越冬グラフィック

カワウの勢力 迎え撃つサギ カモメの遠征 旅鳥(シギ・チドリ)

その他 途中途中で猛禽注意！

会場内、観覧者を狙っているかのように、多摩川生態系の覇者であるワシ・タカ類が頭上から見下ろしています。

● 多摩川を拠点に活動する代表的な野鳥を、70～80点(予定)の標本で紹介します。改修工事による飛来数の変化をまじえながら、現在の多摩川における野鳥相について、楽しんで認識してもらうための展示会です。

